

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名

福島県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	古殿町立田口小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	23	27	27	24	20	32	1	154	

研究の概要

1. 研究主題

個に応じ、児童一人ひとりの確かな学力を高める算数科の学習

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・算数科

全学年の算数科に於いて、児童の学力の定着度に大きな差があったため。また、昨年度からの取り組みによって、大きな効果・成果が現れてきており、継続研究を通して、より確かな実践と確かな学力の向上に資するため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 個に応じ、児童一人ひとりの確かな学力を高める算数科の学習 ～ 習熟度を考慮したコース別学習を通して ～</p> <p>仮説 算数科の学習において、これまでの児童や教師の実態を踏まえ、問題解決的な学習を柱にしながら、単元あるいは単位時間内において習熟度を考慮したコース別学習を設定し、個に応じた指導を展開すれば、児童一人ひとりが「できた!分かった!楽しい!そして感動!!」を味わい、それぞれの生涯に渡り生きて働く学力、つまり確かな学力が 高まるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>&lt;内 容&gt;</p> <p>指導方法・指導体制の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様なコース別学習の形態の導入</li> <li>・ 算数科における学習の仕方の指導</li> <li>・ 学力向上プランの作成(学校全体、教科、学級)</li> <li>・ A Tの活用やT・Tの導入</li> <li>・ 算数科における教材の研究</li> <li>・ 一部教科担任制の導入</li> <li>・ 学校外の様々な分野の専門家の活用</li> </ul> <p>特別支援教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒指導の機能やカウンセリングマインドを生かした指導</li> <li>・ 児童との教育相談や保護者との個別面談、地区懇談会の実施</li> <li>・ 1モジュールを15分間とした弾力的な時間の運用</li> </ul> <p>発展的な学習・補充的な学習等の教材の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習のつながりや広がりや明確にしての指導</li> <li>・ 「あすなるタイム」での個に応じた学習プリントの活用や補充指導</li> </ul> <p>従前の教科書の活用</p> <p>評価を生かした指導の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケートやNRT、CRTの結果を分析した個の実態把握</li> <li>・ 事前・事後・把持テスト等の結果を分析した個の実態把握</li> <li>・ 評価規準から評価基準を明確にしての指導</li> <li>・ 座席表の活用</li> <li>・ 確かな学力に沿った自己評価</li> </ul>
--------	---

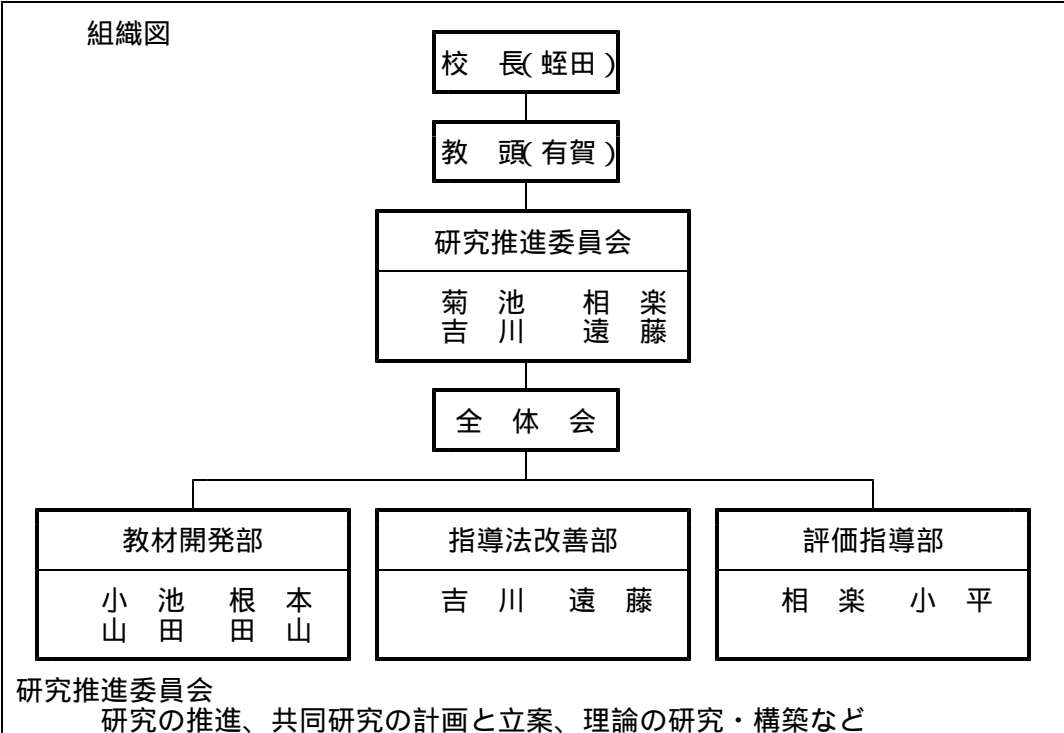
	<p>&lt;方 法&gt;  理論研究  ・ 文献研究を通し、確かな学力や習熟度別学習についての理論を深める。  ・ 夏季・冬季休業中にも理論の学習や伝達講習等を行い（夏3回、冬2回）理論研究を深める。  ・ 習熟度別学習や算数科指導法についての先進校を視察し、その実践について学び、理論を深める。</p> <p>実践研究  ・ 研究主題・研究の見通し等に即した実践を日々積み重ね、時案を書くなどし、校長や教頭に指導を受けながら実践的に研究を進める。  ・ 全学年とも年3回（その他特殊学級担任、T・T担当教員等も1回～3回ずつ）計画的に授業研究会を行い、公開したり講師を招聘したりするなどし、ご指導を頂き研究を深める。  ・ 児童の変容や、研究の成果・課題等を常に明確にしなが、科学的・検証的に研究を進め、深める。  ・ 元横浜国立大学教授片桐重男先生を招いての授業研究会  ・ 山梨大学助教授中村享史先生を招いての1年次研究公開（1 / 2 3）</p>
--	--

平成15年度	<p>テーマ  個に応じ、児童一人ひとりの確かな学力を高める算数科の学習  ～ 発展的な学習・補足的な学習を柱に ～</p> <p>仮 説  算数科の学習において、問題解決的な学習を重視した発展的な学習や補足的な学習を設定し、個に応じた指導を展開すれば、児童一人ひとりが「できた！分かった！楽しい！そして感動!!」を味わい、それぞれの確かな学力が高まるであろう。</p> <p>研究内容・方法  &lt;内 容&gt;  指導方法・指導体制の工夫改善  ・ 思考力・判断力を高める授業の充実 ・ 算数科の教材の研究  ・ 習熟度を考慮したコース別学習の改善・充実  ・ 児童同士の教え合いや学び合いの充実  発展的な学習・補足的な学習等の教材の開発と活用（今年度重点）  ・ 確かな学力を高めるための授業改善の視点研究（問題解決的な学習、算数的活動、発展的・補足的学習の教材開発の視点から）  ・ 学級全体で取り組む発展的な学習教材の開発  ・ 「あすなるタイム」での個に応じた学習プリントの活用や補充指導  評価を生かした指導の工夫改善  ・ アンケートやN R Tの結果を分析した個の実態把握  ・ 観点別学習状況の評価 ・ 指導と評価の一体化  ・ 算数科における単元の評価基準を明確にした指導  ・ S - P表を活用した事前・事後・把持テストの結果分析による個の変容把握と指導の反省・改善</p> <p>&lt;方 法&gt;  理論研究  ・ 文献研究と先進校視察 ・ 各種教育情報の収集・活用  ・ 各種セミナーへの全員参加研修 ・ 毎週1回以上の研修時間確保  ・ 夏季・冬季休業中における理論学習や伝達講習（夏2回、冬2回）</p> <p>実践研究  ・ 1学年1講師によるマン・ツー・マン授業研究  （1学年年3回×6学年+ ）  ・ ミニ授業研究（1授業者年5回）  ・ 埼玉大学教授町田彰一郎先生を招いての2年次研究公開（11 / 19）</p>
--------	---

平成16	<p>テーマ  個に応じ、児童一人ひとりの確かな学力を高める算数科の学習  ～ 評価を生かした指導の工夫改善を通して ～</p>
------	--

年度	<p>研究の見通し  これまで2年間の研究の成果をふまえて、学習指導の充実を図るとともに、工夫改善を加えていく。さらに、評価を生かした指導の工夫改善に重点をおいて研究を進め、児童一人ひとりが「できた！分かった！楽しい！そして感動!!」を味わい、それぞれの確かな学力が高まるよう努める。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>&lt;内 容&gt;</p> <p>指導方法・指導体制の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思考力・判断力を高める授業の充実 ・ 算数科の教材の研究</li> <li>・ 習熟度を考慮したコース別学習の改善・充実</li> <li>・ 児童同士の教え合いや学び合いの充実</li> </ul> <p>発展的な学習・補足的な学習等の教材の開発と活用（今年度重点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 確かな学力を高めるための授業改善の視点研究（問題解決的な学習、算数的活動、発展的・補足的学習の教材開発の視点から）</li> <li>・ 発展的・補足的な学習教材集の集大成と活用</li> <li>・ 「あすなろタイム」での個に応じた学習プリントの活用や補充指導</li> </ul> <p>評価を生かした指導の工夫改善（今年度重点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケートやNRTの結果を分析した個の実態把握</li> <li>・ 観点別学習状況の評価 ・ 指導と評価の一体化</li> <li>・ 算数科における単元の評価基準を明確にした指導</li> <li>・ S・P表を活用した事前・事後・把持テストの結果分析による個の変容把握と指導の反省・改善</li> </ul> <p>&lt;方 法&gt;</p> <p>理論研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文献研究と先進校視察 ・ 各種教育情報の収集・活用</li> <li>・ 各種セミナーへの全員参加研修 ・ 毎週1回以上の研修時間確保</li> <li>・ 夏季・冬季休業中における理論学習や伝達講習（夏2回、冬2回）</li> </ul> <p>実践研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1学年1講師によるマン・ツー・マン授業研究  （1学年年3回×6学年+ ）</li> <li>・ ミニ授業研究（1授業者年5回）</li> <li>・ 埼玉大学教授町田彰一郎先生を招いての3年次研究公開（6/24）</li> </ul>
----	---

(3) 研究推進体制



	<p>先進校視察の伝達講習、資料の配布、文献の整理など          指導案・授業実践の指導など</p>
全体会	<p>研究内容の共通理解など          指導案の検討・事後研究・情報交換など</p>
指導法改善部	<p>思考力・判断力を高める授業の充実          習熟度を考慮したコース別学習の改善・充実          算数科の教材の研究          教え合い、学び合いの充実          T・T指導、A・Tの活用          全教科における学習の前提条件の整備・統一          算数の学習の仕方の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノートの書き方の手引きの作成と反省改善</li> <li>・ 学習環境の工夫・整備（算数コーナー・クイズ等）</li> <li>・ 学力向上のためのタイムテーブルの作成</li> <li>・ 学力向上プランの作成と検討改善</li> </ul> <p>田口小学校ホームページの更新</p>
教材開発部	<p>学級全体で取り組む発展的な学習教材の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童が内発的に発展する学習</li> <li>・ 算数のおもしろさや不思議さ、すばらしさに触れる発展学習</li> <li>・ 比較検討、教え合い・学び合い、練り上げ等に見られる児童の思考の発展等</li> </ul> <p>「あすなるタイム」での個に応じた学習プリントの活用や補充指導の充実          チャレンジコーナー（学習プリント）の整備          パワーアップデーの実施</p>
評価指導部	<p>算数科における単元の評価基準の明確化          事前・事後・把持テストなどの結果を分析した個の変容の把握（S P表の活用）          アンケートやN R Tの分析・考察と活用          教師の指導法に対する児童の評価          指導案・資料・写真などの管理          研究論文の「資料編」作成の統括          通信票の改善</p>

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

本校全校児童の算数科におけるここ6年間のN R T（全国標準学力検査）の偏差値の推移は下記の通りである。

平成 9年度	:	46.2	(前年度比)
平成 10年度	:	45.9	- 0.3
平成 11年度	:	47.1	+ 1.2
平成 12年度	:	49.3	+ 2.2
平成 13年度	:	50.4	+ 1.1
平成 14年度	:	55.0	+ 4.6
平成 15年度	:	.	_____ (2月末実施予定)

なお、1月28日（水）に5年生のみが行った県下一斉学力検査の結果を見ると、国語科で偏差値平均が3.9ポイント（55.6）、算数科で2.5ポイント（54.1）それぞれアップしている。本校第5学年学級は、昨年度偏差値平均が最も低かったクラスで、他の学級も同様の伸びが期待されており、本校全体としての伸びも期待できるものとする。

- 習熟度を考慮したコース別学習の定着（4～6学年）  
 習熟度を考慮したコース別学習が、日常の算数科の授業で実施されるように

なり、教師は、児童の実態と希望を考慮し、単元を構成できるようになってきた。また、子ども自身は自分の学習スタイルや学習内容の理解度を見つめるようになった。

#### ○ 自己選択の場面の定着(1~3学年)

下学年の場合、習熟度を考慮したコース別学習を本格的に実施していない。これは、子どもの発達段階に応じて自己選択力・自己評価力を身に付けていく途上段階にあるからである。

授業の中で、自分のやってみたい解決法を選択したり、難しい問に挑戦したりする自己選択の経験を積み重ねることで、自己選択能力・自己評価力が身についてきている。3年生においては少しずつコース別学習を取り入れている。

#### TTによる指導・モジュールの運用

ほとんどの算数科の授業をTTで行うことにより、多様な学習形態を可能にし、指導の個別化や学習の個性化が図られるようになった。また、弾力的な授業時間(モジュール)の運用により、具体的な操作活動、比較検討など学習場面に応じて効果的に授業をすすめることができた。

#### 問題解決のストラテジー

自力解決の段階で、問題解決のストラテジーを身に付けさせるべき段階を明確にし、授業の中で子どもがわかり、活用できるようなものにする中で、数学的な考え方の力が身についてきた。

#### 発展的な学習の広がり

発展的な学習を、基礎・基本を身に付けた一部の児童だけが取り組むものというようなとらえかたを捨て、より広義なものとしてとらえたことで、発展的な学習のよさを次のようにとらえることができた。

- ・ 算数のおもしろさを味わえる学習である。
- ・ 学習内容のより確かな定着を図るための学習である。
- ・ 数学的な考え方のよさを味わえる学習である。

教師がこのような視点で授業を組み立てることで、児童が意欲的に授業に臨むようになった。

#### 事前・前提テスト、事後テストとS-P表

S-P表を活用することで、児童一人ひとりの学習の成果を縦断的に把握できることと、指導方法の有効性といった指導側の課題把握にも活用することができた。

#### 児童ノートへの記録の累積

自力解決や比較検討の結果や学習の感想をノートに記録させ、児童の思考の変容をとらえるようにした。これをもとに、教師の意図的な指導に役立てることができた。

## 2. 今後の課題

#### 一斉授業におけるTTの効果的な授業の工夫

ほとんどの時間TTで授業を行い、きめ細かな個別支援が可能になっている。しかし、事後の話し合い(5分間評価)は可能であるが、やはり単元全体を見通した計画(役割・支援方法など)がないと、効果的な学習指導が難しい。

#### 児童が自ら発展させることができる発展的な学習のあり方

発展的な学習に取り組む機会が多く、意欲的に学習に取り組む児童の姿が見られるようになった。さらに、児童自らが学習内容を発展的にとらえ、自ら発展させることができるような学習のありかたについて研究していきたい。

#### S-P表の活用と学習感想の継続

S-P表を活用しはじめたが、その機能を十分活用しきれていないといえない。各種レーダーチャートやグラフを活用し、PDSサイクルに生かしていきたい。また、学習感想の累積とその変容の把握を図り、一人ひとりの学びの変容把握とその活用に努めたい。

#### 次年度(最終年度)の研究の方向性

これまで2年間の研究の成果をふまえて、学習指導の充実を図るとともに、工夫改善を加えていく。さらに、評価を生かした指導の工夫改善に重点をおいて研究を進め、児童一人ひとりが「できた!分かった!楽しい!そして感動!!」を味わい、それぞれの確かな学力が高まるよう努める。

学力等把握のための学校としての取組

<b>1 NRT (集団基準に準拠した評価)</b>	
(1) 調査目的	全国的学力水準と比較して相対的に学力を把握する
(2) 実施内容	学年の全学習内容 (基礎的・基本的な学力、自ら考える力) 算数科・国語科
(3) 時期	2月下旬 (5年生のみ1月末.....県下一斉学力検査のため)
<b>2 単元テスト (レディネステスト、事前・事後・把持テスト)</b>	
(1) 調査目的	前提条件並びに単元の学習内容の理解度・定着度・把持度 指導の有効性・課題の検討
(2) 実施内容	各単元の学習内容 (市販のワークテストを活用)
(3) 時期	レディネステスト・事前テスト.....各単元はじめ 事後テスト.....単元の学習後 把持テスト.....単元の学習を終えた1ヶ月後
<b>3 パワーアップデー</b>	
(1) 調査目的	実力テストとして、どの程度学力が身に付いているかを把握し、児童が目標をもって自主的に学習を進められるようにする。
(2) 実施内容	2ヶ月分の学習内容
(3) 時期	年間毎奇数月 (年間6回)
<b>4 意識調査</b>	
(1) 調査目的	児童の算数学習に対する意識とその変容を把握する
(2) 実施内容	算数の学習に関する意識調査
(3) 時期	5月・1月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成14年度	第8回田口小学校算数科授業研究会
1 日時	平成14年 9月 2日(月) 10:00~16:00
2 場所	古殿町立田口小学校 (本校)
3 対象	石川郡内小学校 県内フロンティア校 (参加者: 77名)
4 目的	授業研究 (第1学年・第6学年) コース別学習 講演: 元横浜国立大学 教授 片桐 重男 先生 フロンティア校の情報交換
平成14年度	田口小学校算数科授業公開並びに講演会
1 日時	平成15年 1月 23日(木) 8:45~16:20
2 場所	古殿町立田口小学校 (本校)
3 対象	県中域内小・中・養護学校 県中県南県立高等学校 県内フロンティア指定校 その他全国からの希望者 (参加者: 213名)
4 目的	授業公開 (全学年) 習熟度を考慮したコース別学習 あすなるタイムの公開 フリートーク 講演: 山梨大学 助教授 中村 享史 先生
平成15年度	学力向上フロンティアスクール中間発表会
1 日時	平成15年11月19日(水) 12:30~16:30
2 場所	古殿町立田口小学校 (本校)
3 対象	県中域内小・中学校 県内フロンティア指定校 その他全国からの希望者 (参加者: 131名)
4 目的	授業公開 (全学年) 習熟度を考慮したコース別学習 モジュールを生かした授業 発展的な学習と補充的な学習 講演: 埼玉大学 教授 町田 彰一郎 先生
平成16年度	学力向上フロンティアスクール発表会 (予定)
1 日時	平成16年6月24日(木) 12:30~16:30
2 場所	古殿町立田口小学校 (本校)
3 対象	県中域内小・中学校 県内フロンティア指定校 その他全国からの希望者
4 目的	授業公開 (第2学年~第6学年) 評価を生かした指導の工夫改善 講演: 埼玉大学 教授 町田 彰一郎 先生

研究成果普及のためのHP作成

<http://www9.ocn.ne.jp/~tgs/>

平成15年 2月17日(月)開設済

研究成果普及のためのCD-R作成

平成15年11月19日(水)完成済

研究成果普及のためのリーフレット作成

平成16年 1月 9日(金)完成済

学校視察への対応

平成15年 2月28日(金) 宮城県女川町立女川第一小学校

平成15年 3月12日(水) 埼玉県鶴ヶ島市立栄小学校

平成15年 3月18日(火) 福島県郡山市立芳賀小学校

平成15年11月17日(月)~11月21日(金)

相模原市教育委員会県外委託研修(神奈川県相模原市立麻溝小学校)

各種研修会での実践発表等

平成14年5月 9日(木)第1回基礎学力向上推進連絡協議会(計画発表)

平成15年1月28日(火)第2回基礎学力向上推進連絡協議会(成果発表)

平成16年1月29日(木)第2回基礎学力向上推進連絡協議会(成果発表)

平成16年2月26日(木)第2回学力向上フロンティア事業推進協議会(成果発表)

フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績

フロンティアティーチャー職氏名 教頭 有賀 仁 一

平成14年 5月31日(金) 石川町立石川小学校 授業研究会講師

平成14年 6月24日(月) 石川町立沢田小学校 授業助言

平成14年 6月25日(火) 石川町立石川小学校 授業研究会講師

平成14年 7月23日(火) 地区小教研算数科研究協議会指導助言

平成14年 9月25日(水) 石川町立石川小学校 授業研究会講師

平成14年10月29日(火) 玉川村立須釜小学校 授業研究会講師

平成14年11月15日(金) 石川町立石川小学校 研究発表会講師

平成14年11月21日(木) 玉川村立川辺小学校 授業研究会講師

平成15年 6月 4日(水) 石川町立石川小学校 授業研究会講師

平成15年 6月27日(金) 玉川村立須釜小学校 授業助言

平成15年 7月16日(水) 石川町立石川小学校 授業研究会講師

平成15年 7月23日(水) 地区小教研算数科研究協議会指導助言

平成15年 9月25日(木) 古殿町立論田小学校 授業研究会講師

平成15年10月 2日(木) 石川町立石川小学校 授業研究会講師

平成15年11月 5日(水) 古殿町立宮本小小教研授業研究会講師

平成15年11月12日(水) 石川町立石川小学校 研究発表会講師

平成15年11月21日(金) 古殿町立論田小学校 研究発表会講師

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7~12学級  
 13~18学級  19~24学級  
 25学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無